

放送日 令和4年1月4日（火）
担当者 市長 上野 正三

みなさん、明けましておめでとうございます。

年末年始、ご家族の皆様とゆっくりされたことと思います。

しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、また、土木事務所、消防をはじめ、正月中にも勤務をされた職員もおられます。勤務された皆様方に心より感謝を申し上げます。

年末の挨拶でも申し上げましたが、昨年4月から新たなまちづくり、第6次北広島市総合計画がスタートしております。

「自然と創造の調和した豊かな都市」を、まちづくりのテーマとして掲げており、ボールパーク構想や駅西口周辺の活性化をはじめとした各種施策を推進し、にぎわいと活力にあふれる輝くまちを作るためには、職員の皆様が一丸となって力を合わせていただくことが必要と考えているところであります。

市民の皆様が安心して暮らせて、誰もが住みたいと思えるまちづくりには、健全な行財政運営の推進、安心して子育てができる環境整備、持続可能な公共交通網の形成に向けた取組が重要と考えております。

計画を進める上で、さまざまな困難に出会うかもしれません。そんな時は、ぜひ先人のまちづくりに対して、思いを馳せていただきたいと思います。

まちづくりの第一歩は、まちの歴史を知ることだと考えております。

138年前、一村創建のため原始の森に開拓に入った広島県人と田郁次郎翁ら25戸103人、寒地稲作に挑戦、そして、成功した中山久蔵翁をはじめ、先人は度重なる艱難辛苦を乗り越えて、現在の北広島の礎を築いてこられました。

皆様には、アンビシャスシティ、大志をいただくまちの職員として、何事にも挑戦する気持ちを忘れず、業務に当たっていただきたいと思います。

さて、北広島市は、これまで職員の皆様の頑張りによって発展を続けてまいりました。そんな中で、平成3年に採用された、11名の職員が勤続30年を迎えました。

本来であれば、職員皆様の前で表彰させていただくところではありますが、コロナ禍でもありますので、後程、表彰状をお渡しさせていただきます。

振り返りますと平成3年当時は、毎年人口が千人以上増加し、いよいよ5万人に到達しようという、まちが成長している時代でありました。

特に、平成8年の市制施行に向け、まちづくりを進めていたところであり、11名の皆様にも大変ご苦勞をいただいたところであります。

入庁後30年が経過した皆様には、若い職員の模範となり、まちづくり、そして職員を引っ張っていく立場であります。

このたびの表彰を節目とされ、さらに活躍されることを期待しているところであります。

結びに、本年が、新型コロナウイルス感染症が収束し、皆様にとりましても、北広島市にとりましても、すばらしい年となりますことを心からお祈り申し上げ、仕事始めの挨拶とさせていただきます。

本年1年、よろしく願いいたします。

放送日 令和4年1月5日（水）
担当者 消防長 佐々木 伸

明けましておめでとうございます。消防長の佐々木です。本年もどうぞよろしく
お願い致します。

昨年の消防は新型コロナウイルスに伴う救急搬送に大変神経をすり減らした1年
となりました。特に感染拡大期間となりました5月には、千歳保健所管内で医療ひ
っ迫状態となり、受け入れ病院の照会件数が4回以上という搬送困難事案が多発し
ました。遠くは余市町や砂川市の病院への長距離搬送など出勤から帰署まで7時間
を要した事案もあり、長時間にわたり緊張を強いられる場面がありました。この急
場をしのぐために、専属の特殊救急隊を設置し、千歳保健所とのホットライン構築
など弾力的な対策を講じながら、市民の救急要請に迅速に対応できるように努めた
ところです。緊急事態宣言が解除された10月以降は落ち着きを取り戻し、現在は
通常救急体制となっております。

一方では、近年頻発している地震や風水害などの大規模自然災害やボールパーク
開業後に発生するかもしれないテロやNBC災害を想定した訓練の再構築、新人職
員の早期現場投入に向けた教育方針の見直しなど、消防体制の強化に向けた取り組
みも進めているところです。

本年も様々な消防需要に適切に且つ弾力的に対応し、市民が将来に希望をもつ
て、安心して暮らせるよう消防一丸となって取り組んでまいります。

最後に、私事ではありますがあともう少しで市職員としての現役生活を卒業する
こととなります。職員の皆様はもとより、私を暖かく見守っていただいた関係諸氏
の皆様には、長い間大変お世話になり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着
用」や「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの感染防止行動を
徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月6日（木）
担当者 消防本部次長 小室 秀治

おはようございます。消防本部次長の小室です。

今日は火災に関することと消防の取り組みについてお話しをさせていただきます。

先日、総務省消防庁から令和2年に発生した火災の確定値が発表されました。近年は燃焼機器などの安全装置機能が向上していることや建材の難燃化、さらに防災機器などの普及によって火災そのものの発生件数が減少しています。また、これに比例するよう火災における死傷者の数も全国的に減少傾向にあります。

北広島市においては、令和2年に26件の火災が発生しました。これを人口あたりの出火率で見た場合、全道の市町村の中でも極めて高い水準であったことから、消防としては強い危機感を持ち、これまで以上の徹底した予防対策の必要性を感じました。このため火災発生件数増加の直接的原因であったゴミ焼や野焼きなどの行為に対して重点的なパトロールの強化を実施するとともにホームページ上においても、火災予防に関する各種の注意喚起を行ない広く周知を図ってきました。この結果、令和3年の火災発生件数は16件となり、前年に比較して大幅な減少となりました。

全国では火災による死者の7割が住宅で発生しています。平成18年に住宅用火災警報器の設置が義務化されて以降、住宅火災による死者数は減少傾向にありました。近年のデータによりますと、住宅用火災警報器が設置されている場合は、設置されていない場合に比べて、死者数と焼損床面積は半減、損害額は約4割減少したという結果が出ています。

消防では市民の皆さんに対して住宅用火災警報器の有効性と重要性を訴え、さらなる設置の促進と、設置から10年を目安にした住宅用火災警報器の交換をお願いしています。

職員の皆さんにおかれましてもご自宅に設置されている住宅用火災警報器を再点検していただき、もし10年を超えているものがありましたら是非この機会に新しい機器に交換していただきますようお願いいたします。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」や「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月7日（金）
担当者 消防署長 本田 高広

おはようございます。消防署の本田です。

昨年も新型コロナウイルス感染症の拡大により国内をはじめ、世界で大きな影響を受けた一年でした。

5月から9月末まで北海道において、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が繰り返し出される中、8月には2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、札幌会場では競歩や男女のマラソンが実施されたところであり、競技期間中においては会場に現地警戒本部が設置され、関係機関との連携体制が確立されたほか、NBC等のテロ災害を含むあらゆる災害に対応するため、競技会場管轄消防本部を中心に、必要な消防部隊を迅速に出動させるための体制を確保するなど万全の体制で消防特別警戒を実施されたところであり、女子マラソンの当日は当市の消防署から1隊4名を札幌市に派遣をしたところです。

最後になりますが、北海道ボールパークFビレッジについてであります。2023年の会業に向けた新球場の建設や道路などのインフラ整備に関連する工事が順調に進んでおり、現在は新球場のガラス壁となる部分に大きなツリーが点灯され1月初旬まで非常に美しい光景が観られたところです。

今後球場がオープンすると市民の皆様や各地から沢山の方が球場に訪れると思いますが、安心して観戦いただくため、消防署では災害が発生した時のことを想定しマニュアルの作成や訓練を積み重ねているところでもあります。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」や「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月11日（火）
担当者 総務部税務課 中田 祥

おはようございます。令和3年度9月に入庁いたしました、総務部税務課の中田です。本日は、僭越ではありますが、良質な市民対応について私の考えを披瀝させていただきます。

地方公務員は、市民の皆様の話をよく聞き、法律や制度のもと最大限生活が豊かになるサポートをする存在であると考えます。今後多様な生活環境に直面する市民の皆様は、機械的な対応だけではサービスの向上はおろか、低下に繋がってしまう可能性があります。先般、業務内において、先輩職員の方に帯同させていただき市民対応をする場面がありました。境遇を丁寧にヒアリングし、担当業務外の知識を駆使して、他部署と連携を取りながらご案内をしておりました。その際の市民の方の安心と信頼の表情をみて、「市民に寄り添った対応」の重要性を再認識いたしました。

先輩職員が、全市民の対応をできるわけではありません。高い水準のサービスを提供するために、まずは私自身が個人として成長する必要があると感じました。ヒアリング力の向上や専門知識の習得、所管関係なく制度の熟知を課題として、今後も日々研鑽していく所存です。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」や「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月12日（水）
担当者 市民環境部環境課 佐藤 仁美

おはようございます。環境課の佐藤仁美です。

突然ですが、みなさんは好きな言葉はありますか。私は「継続は力なり」という言葉が好きです。

私は中学生の頃から約10年間、毎日日記をつけています。1日のできごとや感じたことを文章にすることで自分の気持ちと正面から向き合うことができ、思ったことを書き出すことでストレスの軽減にもつながります。そのように1日のおわりに頭を整理し、次の日を気持ちよく迎えらるるようになっています。

日記を書いているとよかったなと思う時があります。それは悩んでいる時です。日記を見返すと「前はこうやって乗り越えたんだな。」「たくさん悩んだけれども、楽しいこともたくさんあったな。」と、私は過去の自分から元気をもらえます。

2022年になり、何か新しいことを始めてみようかなという方は、気が向いた時だけでも良いので日記をつけてみてはいかがでしょうか。

私は10月に北広島市役所に入庁しました。まだまだ学ばなければならないことが数多くあり、周りの皆さんにご指導いただきながら、日々の業務を進めています。毎日覚えることがたくさんありますが、教えていただいたことは文字に残し、いつでも振り返ることができるようにしています。今後も常に学び続ける姿勢で、ひとつひとつ経験を積み重ねて知識とし、市民の方のお役に立てるよう努めていきます。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月13日(木)
担当者 保健福祉部福祉課 畑中 良太

おはようございます。保健福祉部福祉課の畑中です。

私は、6年間の前職経験を経て、昨年8月に北広島市役所に入庁し、現在5か月ほどが経過しました。多岐にわたる知識が求められ、まだまだ分からないことが多く、勉強の日々ですが、周りの方々に優しく教えていただき、感謝しながら業務に取り組んでおります。

その中でも、私が仕事において大切にしていることは、月並みですがコミュニケーションを図ることです。コミュニケーションの重要性は言わずもがな、たくさんあると思います。私自身、前職を含めると早いもので社会人経験が6年以上になりましたが、年数が経つにつれて自分1人の力はちっぽけであると気付かされます。これは私自身の能力の問題かもしれませんが、自分1人の仕事は先入観などに囚われて硬直的なものになってしまい、組織として良いサービスが提供できないと私は考えます。

特に、目まぐるしく変化する近年の状況下、多様化する地域のニーズに応えるためには、組織内でのコミュニケーションはもとより、地域の方とのコミュニケーションがより一層重要になってくると考えます。

今私は生活保護担当として、様々な事情を抱えている方の支援業務などに携わっております。そこでの支援は、通り一遍の一方的なものではあってはならないと日々の業務を通じて感じます。コミュニケーションを通して、その方が抱えている悩みや不安を理解し、どのようなことが課題になっているか、一緒に考えることが大切であると考えます。まだまだ未熟ものですが、これかもコミュニケーションを大切にし、自己研鑽に励むことで、困っている市民の方に寄り添った支援ができる職員になりたいと思います。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月14日（金）
担当者 保健福祉部健康推進課 松永 彩音理

おはようございます。健康推進課の松永彩音理です。4月に保健師として入庁し、約10か月が経ちました。社会人1年目でまだまだ未熟な部分も多いですが、周りの方々に支えてもらい、勉強の毎日です。

みなさんはお正月をどのように過ごしましたか。色々なものを食べる機会が多く、正月太りしてしまった方も多いのではないのでしょうか？そこで今日はメタボリックシンドロームについてお話をしたいと思います。メタボリックシンドロームについて、みなさんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。メタボ=太っている、腹囲が大きいと思われる方も多いと思いますが、ただ太っているだけではメタボとは言いません。メタボリックシンドロームとは、内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい状態のことを意味します。そして、心臓病や脳卒中は日本人の死因の上位を占めるもので、これらはいずれも、動脈硬化が原因となって起こることが多いです。動脈硬化が進行する危険因子としては、高血圧・喫煙・糖尿病・脂質異常症などがあげられます。つまり、内臓脂肪は高血圧や糖尿病、脂質異常症などを引き起こしやすくし、さらにこれらの要因が重複してしまうほど、動脈硬化を進行させる危険が高まるのです。

みなさんも、体重や腹囲だけを気にするのではなく、血圧や血糖値の値についても合わせて意識してもらえると嬉しいです。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月17日(月)
担当者 保健福祉部健康推進課 成瀬 未希

おはようございます。健康推進課の成瀬未希です。昨年4月に入庁し1年が経とうとしています。周囲の優しい皆さんに恵まれ、充実した毎日を過ごすことができています。

今日は4月から毎月参加している勉強会で学んだ「血圧」についてお話したいと思います。

血圧とは心臓から送り出される血液が全身へ流れる際に、動脈の内側にかかる圧力のことをいいます。上の血圧を収縮期血圧といい、心臓が収縮して最も強く血液を送り出そうとするときの血圧です。下の血圧を拡張期血圧とって、心臓がゆるんで、送り出した血液が心臓に戻ってくる際の血圧のことをいいます。

血圧は常に変動しており、夜間眠っているときには低く、起きて活動している日中は高くなります。食事や運動、入浴や排泄、喫煙などの動作は血圧をあげます。

血圧は心臓に近い血管ほど高く、手足などの末梢血管に行くほど低くなるというように、必要な血圧に調整することができる仕組みがあります。しかし高血圧が続くとその仕組みを持つ血管の仕事量が多くなり疲れてしまいます。高い圧に耐え続けた血管は傷つき、他の病気を招く危険性が高まります。先日のお話で聞いていただいた「メタボリックシンドローム」は内臓脂肪が増えることで血圧を上昇させる物質が働き、高血圧になりやすい状態となります。

血圧の正常値は上が135、下が85未満です。それ以上の血圧は血管を痛める高血圧の状態です。健康であるために、自分自身のからだに興味を持ち、意識的に血圧を気にかけてもらえるとうれしいです。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月18日（火）

担当者 保健福祉部長健康推進課 植田 麻里奈

おはようございます。保健福祉部健康推進課の植田麻里奈です。令和3年4月に入庁し、早いもので1年が過ぎようとしています。私は現在特定健診・介護予防担当として健診後の保健指導を中心に行っています。

ここで最近学習した脳の血管についてお話ししてみようと思います。人は進化の過程で1日中体を動かすため、大量の血液を流せるよう血管が分厚く進化しました。一方で脳だけは頭蓋骨に覆われていて、たくさん血液を流すと脳が圧迫されてしまいます。そのため、脳はどんな場合にも血液量を一定に保つ特別な仕組みを獲得し、血管は分厚く進化することはありませんでした。その後、人間の脳は進化とともに3~4倍の大きさに劇的に巨大化し、たくさんの毛細血管を張り巡らせることになりました。脳のすべての血管をつなぎ合わせると600kmにもなるそうです。そのような変化の末に脳の血管は非常に薄くもろく、必要以上の圧に弱い作りになったようです。ちなみに心臓の細胞に酸素を送る血管の壁の厚さが2mmなのに対し、よく脳梗塞が起こる血管の壁の厚さは0.3mm、大体7分の1の厚さだそうです。脳卒中のガイドラインには、「高血圧は脳出血と脳梗塞の共通の最大の危険因子」と書いてあります。北広島市の高血圧で治療をしていない人の割合は約50%、糖尿病で治療をしていない人の割合は約15%です。比べると高血圧は治療につながりにくい現状があるのかなと思います。

日々このような体の仕組みについて学習していますが、住民の皆さんが少しでも自分の体に興味を持ってもらえるようにこれからも継続していきたいなと思います。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月19日（水）
担当者 保健福祉部長健康推進課 辻脇 聖人

おはようございます。健康推進課の辻脇聖人です。

私は本年9月に約5年間の社会人経験を経て当市に入庁しました。入庁してから早いもので4か月が経過し、その中で自分がどこまで成長できているか不安を感じる時もありますが、諸先輩方の温かいご指導のおかげで日々の業務に邁進することができています。

本日は、私が職員として大切にしていることについてお話をさせていただきます。それは、「体を資本に、健康管理を怠らない」ことです。これは私が入庁してから特に大切にしていることとなります。そのきっかけは、前回の健康診断の結果が自分で想像しているよりも悪く、健康推進課の一員として働く中で、このままではいけないと感じたのがきっかけです。

どんな人でも、日々の健康管理を怠り体調不良を抱えながら働いていくと、業務において高いパフォーマンスを維持することはできません。そこで私は、現在はバランスのいい食事を摂り、適度な睡眠・運動をするという、当たり前ではありますが規則正しい習慣へ生活を見直しました。まだ劇的な結果が出ているわけではありませんが、体も軽く感じ、今まで以上に集中をして日々の業務に意欲的に取り組むことができていますのでこれからも継続したいと思います。

今後も、健康推進課で健康に関わる様々な業務を行う中で、市民の皆様の健康増進に少しでもお力添えをできるように、自分自身で率先して健康管理に努め、日々の習慣にこだわりを持ちながら、市民の方へより良いサービスを提供できる職員として働きたいと思います。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月20日(木)

担当者 保健福祉部高齢者・障がい者相談担当 福嶋 日奈子

おはようございます。高齢者・障がい者相談担当の福嶋です。

私は、昨年4月に入庁し、約10か月が経ちました。約10か月間という日々はあっという間だったように感じます。社会人になって初めて経験することばかりでしたが、周囲の先輩方に優しく指導して頂きながら、日々の業務に取り組んでいます。

本日は、保健師として働く中で私が感じたことと、理想とする職員像についてお話ししたいと思います。

私が担当している業務は、障がいを持っている方や高齢の方、またはそのご家族への相談支援を行うことです。相談支援と一言で言いますが、その内容は多種多様となります。私にはまだまだわからないことも多いですが、一人一人の方と向き合って支援をしていきたいと感じています。

先輩方は、対象者の生活背景など様々なことを踏まえながら、他の職種や機関の方々とも連携し、一人一人に合った支援を検討しています。相談者の気持ちを理解しようとする姿勢を持ちながら、そのような支援を行うことで、思いを吐露してもらえるような、信頼関係の構築に繋がっているのだと感じました。

私は、先輩方からたくさんのことを学びながら、市民の方に寄り添う姿勢を忘れずに、少しでも悩みを相談したい、また相談して良かったと思ってもらえるような、保健師になれるように頑張りたいと思います。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月21日（金）
担当者 保健福祉部保険年金課 今西 草太

おはようございます。保険年金課の今西草太です。

昨年春に入庁し、まだまだ勉強の日々ではありますが、職場の皆さまに支えていただき業務を行っています。質問に対しては懇切丁寧に、私のキレの無い発言にも温かく反応していただき、たいへん働きやすい環境を作っていただいていると常々感じています。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、早いもので1月も後半戦ですが、皆さま2022年はどのような年にしたかとお考えでしょうか。私は、「自分の好奇心を大切に行動する年」にしたいです。社会人一年目の昨年は身の周りの環境が大きく変わり、あらゆる物事が新鮮で多くの学びを得た一年でした。しかし、そのほとんどは周りの方々に用意していただいた環境の中で促されるままに起こした行動だったと感じています。そのため、今年は自分の足でたくさんの場所に行き、目で見て、手を動かし、頭で考える。そのような経験を積んでいきたいと考えています。

仕事においては、現在担当している医療費助成業務を全力で遂行していくことはもちろん、関連する各種制度についても知識の幅を広げることで、より正確でより早く業務を進めていけるように勉強を続けていきたいと思っております。また、円滑な業務の遂行にはコミュニケーションが不可欠です。毎日の挨拶など基本的な部分も大切しながら過ごしていきたいです。

現在23歳、数え年では25歳となり本厄にあたります。災難の多い年とも言われますが、試すこともせずに目先の失敗に怯えるのではなく、興味を持ったことはまずやってみる、そんな能動的な一年にしていきます。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月24日(月)

担当者 子育て支援部子育て・学童担当 荒田 徹生

おはようございます。子育て・学童担当の荒田徹生です。昨年4月に北広島市役所に入庁し、もう少しで一年が経とうとしています。先輩職員や上司のサポートのおかげで、精神的な苦痛を感じることなく学びの多い充実した日々を過ごしています。いつもありがとうございます。

今日は私の仕事に対する考え方をお話ししたいと思います。昨今の情勢は、若者の将来に対する不安が渦巻く時代となっています。若者の8割が将来を不安に感じたことがある、というデータも発表されています。具体的には、将来の貯金や、自分の人生設計の見通しがしづらい、社会や経済の停滞感を感じる、などの要因が考えられます。

私も最近の若者の例に漏れず、将来に不安を感じることもあります。そのようなときには、「一日だけでいい」という意識をもって仕事に臨んでいます。「一日だけ」と言われると、長期的な視点を欠き、ネガティブなイメージを孕んでいる印象を受けますが、一日を全力で生き抜き、目の前のことに集中するというポジティブなイメージでとらえています。

仕事への理解を深め、どうしたら工夫ができるか頭を使い、貪欲に今日を活用して一日を終える。そんな一日を繰り返していけば、将来の不安を払拭して毎日を充実したものにできるはずです。

一日一日を全力で生き抜いた先に、良い未来を築けると信じて日々の業務に邁進していきます。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月25日（火）

担当者 子育て支援部すずらん保育園 田中 亜実

おはようございます。子育て支援部すずらん保育園の田中亚実です。

4月に北広島市役所に入庁し、9か月が経過しました。9か月前にスーツを着て新任研修に参加していた頃が、随分前のことのように感じます。

マスク生活が当たり前になり、家を出るときにマスクを忘れることもなく、今では体の一部のようにになりました。しかし、マスクがあることで相手の顔を認識したり、表情を読み取ったりすることの難しさは、今も変わりません。すずらん保育園に配属されたばかりの頃、担当している1歳児の子どもたちも、給食の際にマスクをとった私の顔を見て、不思議そうにしていました。顔の半分がマスクで隠れた状態の私と過ごす時間の方が長いために、いざ私の顔の全体像が見えると「こんな顔がだったのか…」と思ったのでしょうか。子どもたちも保護者の方も、私の全部の顔を認識することはマスク生活が続くうちは、なかなか難しいことだと思います。しかし、そういった中でもコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていくことが私たち保育士には求められています。マスクがあったとしても、声や態度でやや大ききなくらいに気持ちを表現する、視線を合わせて会話をするということを徹底し、私の気持ちを伝えることで、思いに寄り添うことはできるのではないかと考え実践しています。いつかマスク越しではなく、互いの顔を見てやり取りができることを楽しみに、今はマスクがあったとしても、園児や保護者の方とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月26日（水）
担当者 教育部社会教育課 里舘 連

おはようございます。教育部社会教育課の里舘連です。

9月に入庁し、5カ月間が経とうとしています。あっという間だったと感じるとともに、この5カ月間で自分はどのくらい成長できたのだろうと不安を感じています。

今日は私が仕事をするうえで大切にしていることを話したいと思います。それは、常に自分を向上させていくことです。

この考えを持つきっかけになったのは大学時代に1年間所属していたアメリカンフットボール部にいた時のことです。リーグ優勝を目指し練習を重ねていく中で、選手間の練習に対する意識の違いが気になるようになりました。練習試合に勝ったからと満足していた部員に対して私は「練習試合に勝つことがチームの目標ではない、相手チームが弱くなっていれば成長していなくても勝つのは当然だ」と感じていました。

それ以降私はチーム一人ひとりの成長こそが、チーム全体のパフォーマンスを引き出し、成果につながっていくのだと考えるようになりました。これは仕事においても同じことだと考えており、一人ひとりが向上心を持ち、より良いサービスを提供できるよう努力していくことが重要だと考えています。

今は業務を覚えることに必死であり自分の成長に目を向けられていませんが、入庁当時よりも少しは成長できたかと思っています。これからも現状に満足せず、向上心を持って仕事に取り組んでいきたいと思っています。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月27日(木)
担当者 水道部水道施設課 浅野 夕樹

おはようございます。水道部水道施設課の浅野です。

業務は、新規建築物の給水装置設置審査・検査業務や、水道メーターの管理に関わる業務を担当しています。

私は昨年4月に入庁しましたが、最近は通常の業務に加えお客様の要望や漏水対応等、イレギュラーなこともそれなりに落ち着いて対応できるようになってきました。

その中で私は、日々業務の遂行にあたって心がけていることがあります。それは業務の効率化です。水道メーターは、使用期間が8年と水道法で期限が切れる前に交換するように義務づけられていますが、今年度は昨年の1.5倍の交換件数でした。また、ボールパークの建設の影響もあり昨年度に比べ、申請件数は増加しており、これらに伴いそのほかの業務も処理が追い付いていない状況にあります。業務の遂行にあたり効率化を考えることは当然のことではありますが、一連の仕事の流れはどうすれば効率が良くなるか、既存の資料やデータが何のためにあるか理解し、どのように改良すれば効率が良くなるか考えるようにしています。小さなことでも一つ一つ短縮することができれば、大きな時間を作ることができると思います。しかし、私は業務中ミスをすることや、まだまだ知識が浅く、先輩方職員の知識をお借りすることで、時間を奪ってしまうこともあります。そのため、今後は効率だけではなく質も落とさないよう注意し、教えていただいたことは確実に蓄積していけるように心がけて業務にあたりたいと考えています。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月28日（金）
担当者 消防署消防課 若原 明日翔

おはようございます。消防2課消防担当の若原明日翔です。昨年の4月に消防職員として拝命を受け、間もなく1年が経とうとしています。

本日は、普段私が職務中に意識している元気な挨拶と繰り返すことについてお話ししようと思います。この2つを意識している理由は、元気な挨拶は相手と自身両者を鼓舞するため、繰り返すことは意識的なことを無意識にできるようにするためです。

私は職務を行う中で失敗をして落ち込むことがよくありました。しかし、どんな時でも挨拶だけは元気よくしようと決めて日々を送っていると、ある朝先輩から「前から思ってたけど毎日いい挨拶してるね。」と褒めていただくことがありました。小さなことでも見てくれている人はいるのだと実感し、そして元気な挨拶は自分も周りの人にも良い影響を与えることに改めて気づくことができました。

また私は、一度学んだことを非常に忘れやすく、特にロープの取り扱いが苦手だったので、毎朝10分だけ練習をすることにしました。その結果、何が苦手なのかに気づき改善することができました。実際に人が物事を覚えるには、考えている時間ではなく思い出した回数に関係があるということも知り、今後も継続していくべきだと思いました。

このように、小さな意識が大きな成長につながり、災害現場での活動が早くなるなど、結果的に組織にも貢献することができると私は思います。

そのため、私はこれからも元気な挨拶と繰り返すことを心がけようと思います。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年1月31日（月）
担当者 消防署消防課 齋藤 雄輝

おはようございます。消防署消防課の齋藤雄輝です。

私は、消防課に所属しており、事務処理や災害に備えた訓練等を実施し日々を過ごしています。勤務する度に新しいことを覚えるので、少しずつではありますが成長していると実感しています。さて、このスピーチでは、これまで勤続してきたこと、そしてこれからの将来像を話していこうと思います。

消防課に配属されてからおよそ1か月間は所属にて新任職員研修を受けました。その後、すぐに北海道消防学校に入校し、そこでは小隊長を任せられました。小隊長を率いる立場として責任を伴う場面も多くありましたが、多様なカリキュラムと厳しい教官の指導、そして何よりも3か月間寝食を共にした仲間の存在が私を支え、大きく成長させてくれたと思います。所属に戻ってからは、学校で学んだ基礎を活かし、北広島市独自のやり方に慣れるために今も日々勉強中です。

次にこれからの将来像について話していこうと思います。ボールパークの開業に向けて救急の必要性は今後ますます高まってくると感じます。私は救急救命士の資格を持っているので、これからは命に関わる機会が増えると思います。市民のニーズに傾聴することはもちろん、時には重要な処置をしなければいけない現場もあるはずです。そのような時、いかに冷静に対処できるかが求められるはずなので、焦ることなく現場対応していくために訓練を積んでいきたいです。

結びとなりますが、大志を抱きながらチャレンジ精神に溢れる北広島市の暮らしを守っていけるような消防官になりたいと思います。

新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、引き続き、「マスクの着用」、「こまめな手洗い」、「黙食」、「3つの密を避ける」などの基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。